

# 部会報告シート

## ■部会の基本情報

資料3

部会名	相談支援部会
担当者名	中原 久
部会の目的	柏市における相談支援体制のあり方を協議
構成員	委託相談支援事業所, 指定相談支援事業所, 当事者団体, あいネット, 行政(障害福祉課)

今年度の予定(今回の報告対象:背景色のある回)

会議体名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援部会		①30日				②1日			③1日			
相談支援連絡会	①25日			②18日			③24日			④16日		
計画相談実務者ワーキング					①20日			②19日			③18日	

## ■プランとの関連

関連する柱	柱1(相談支援)
-------	----------

プラン方針	・基幹相談支援センターの機能強化 ・相談従事者への支援 ・関係機関の連携強化
-------	--

## ■各回における検討内容

地域の声>当事者からどんな声があった?何に困っている? ⇒ 部会で出た課題>なぜ困っている?どこに課題がある? ⇒ 今後の方針>部会でどんな取組を進める?

件名: 相談支援体制の明確化

他部会との連携: 自部会で検討を継続      運営会議での取扱い: 情報共有

<p>・前回の部会で、市が拠点周知用にA4サイズの一般市民向けチラシを作成予定とし、当事者向けのリーフレットとして、拠点と総合相談のあいネットを掲載し、周知を進め、意見を聴取することとした。</p> <p>・様々な行政機関や関係機関のネットワークを活用して連携しながら支援を行っていけるように、関係者向けについては、記載内容や案内方法等、継続して事務局会議にて検討を進めていく。</p>	<p>⇒</p> <p>・障害福祉課が現在市民向けに拠点周知用のパンフレットを作成中。これは拠点の周知を目的として市が作成しているものであるため、あいネットは掲載できない。</p> <p>・福祉政策課作成の柏市相談窓口ガイドブックに関して、内容については大きく変えることは難しいため、意見交換をして令和9年度に向けて増刷も含めて検討する。</p> <p>・指定特定事業所に新規でどの程度相談が入り、拠点に繋いでいる数や、福祉サービス事業所をどこまで理解して繋いでいるかの調査が必要なのではないか。</p>	<p>⇒</p> <p>・情報アクセシビリティの観点から誰でも情報にアクセス出来るよう整理が必要になる。</p> <p>・継続課題として情報整理を行い、障害のある方の生活を包括的に支えていくための連携体制の強化が必要である。</p>
---	--	--

件名: 児童分野の相談の課題について

他部会との連携: 他部会と合同で検討希望      運営会議での取扱い: 情報共有

<p>・こども部会の事務局と相談支援部会の事務局で合同会議を行い、各部会持ち帰りとなった。</p> <p>・相談支援部会としては、セルフプランの増加もそうだが、児童の社会資源の少なさが課題として挙げられている。</p>	<p>⇒</p> <p>・若い世代の保護者同士のつながりが希薄化している。サービスを利用して生活は回しているが、親の気持ちの面で子育てができず、他者に育ててもらおうことを期待してしまう。</p> <p>・保護者にサポートが必要な家庭が増加している。サポート側の連携体制を知ることは重要である。</p>	<p>⇒</p> <p>・相談支援専門員、児童、放デイの職員にも療育やこどもの成長発達についての理解を進める研修やグループワーク等の機会を検討する。</p> <p>・社会情勢の変動により、放デイが預かり先になっている。課題としてどうしていけるか検討する。</p>
---	--	---

件名: 相談従事者の支援について

他部会との連携: 自部会で検討を継続      運営会議での取扱い: 情報共有

<p>相談支援において、一人事業所の相談支援専門員が体調不良になったとき等、不測の事態に備えて、複数の事業所で対応しあう等のバックアップ体制が必要となっている。</p>	<p>⇒</p> <p>協働型モデルについて、千葉市の相談支援事業所より石野氏を講師に招き、研修とグループワークを実施。1人事業所の機能強化加算、協働型を行うための要件などを収支を含めてお話いただいた。</p>	<p>⇒</p> <p>今後、市も含め、協働型モデルについて検討する。</p>
--	---	---

## ■各回の検討から見える地域課題

<p>・相談支援部会は、すべての部会とつながりがある。様々な関係機関との連携を強化し、障害のある方の生活を包括的に支えていく必要がある。</p> <p>・社会資源の不足と、福祉サービス以外の専門機関との連携について。</p> <p>・相談員がなんでもやってくれると思われてしまう反面、何を優先し支援していくのか。</p>
--

## ■各回におけるその他の共有事項 ※研修の実施状況や部会で単に情報共有した内容等

<p>・基幹相談支援センターと4部会合同でサービス等利用計画と個別支援計画、相談支援専門員とサービス管理責任者について研修会を実施。来年度以降も、グループワーク等を取り入れつつ、相談と事業所について研修を引き続き行っていく。</p> <p>・くらし部会・にも包括合同研修会「精神障害の方の対応について」12月16日開催周知。</p> <p>・防災について、研修開催周知。</p>
---

# 部会報告シート

## ■部会の基本情報

部会名	くらし部会
担当者名	野田 幸子
部会の目的	柏市における障害者の様々な暮らし方を支えるサービスのあり方を協議
構成員	当事者団体, グループホーム, 入所施設, 生活介護, 地域活動支援センター, 行政(障害福祉課)

今年度の予定(今回の報告対象:背景色のある回)

会議体名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
くらし部会		①29日			②29日				③3日			
ヘルパー事業所連絡会				①14日			②27日					
グループホーム等連絡会				①1日			②7日					

## ■プランとの関連

関連する柱	柱2(基盤整備, サービス)
-------	----------------

プラン方針	・拠点を中心としたネットワーク深化 ・高齢, 重度障害者への支援体制強化 ・サービスの充実や人材確保
-------	--

## ■各回における検討内容

地域の声>当事者からどんな声があった?何に困っている? ⇒ 部会で出た課題>なぜ困っている?どこに課題がある? ⇒ 今後の方針>部会でどんな取組を進める?

件名: 重度・高齢化に備えた体制整備 ⇒ 他部会との連携: 自部会で検討を継続 ⇒ 運営会議での取扱い: 意見交換

・8050世帯において、親亡き後に備えた自立に向けて、スモールステップが踏める資源が少ない。  
 ・医療的ケアや重度の方向けの設備や人員配置が十分確保できず、当事者が必要とする支援を提供できる暮らしの場が少ない。  
 ・軽度知的障害や精神障害のある方からのニーズとして単身タイプのグループホームの入居相談が多いが、近隣トラブルで、多くの支援が必要となり、定着が難しい。

⇒  
 ・各グループホームのハード面、支援スキルは重度高齢化に対応できているか。  
 ⇒  
 ・個別支援計画の重要性は認識できている。サービス等利用計画との整合性、また利用者のニーズや障害特性等のアセスメントや職員間での支援の統一は図れているか、確認が必要。

⇒  
 ・GH等連絡会において、重度高齢化ケース、早期退所ケース、近隣トラブルケース等の事例検討を継続して実施する。  
 ・医ケア連絡会との連携方法を部会で話し合う。

件名: 在宅生活を支援するサービスの充実及び資源の確保 ⇒ 他部会との連携: 他部会と合同で検討希望 ⇒ 運営会議での取扱い: 意見交換

・障害特性により公共交通機関を利用することができず、外出時における移動が困難。  
 ・親の高齢化により、定期通院や通所においての車での送迎が難しくなっている。

⇒  
 ・通学、通勤、通院支援などは人員の関係上グループホーム職員での対応が難しい。また、生活介護事業所の送迎について車両の確保・維持、人員配置に課題感がある。  
 ⇒  
 ・移動支援事業所、また行動援護事業所が少ないことにより、提供事業所の人的負担が大きい。また研修参加等のハードルがあがっている。

⇒  
 ・家族、支援者が互いに無理なく持続していける支援体制の構築が必要。  
 ⇒  
 ・移動支援と行動援護のサービス利用に関する課題と今後の方向性を、相談支援部会や行政と検討していく。

件名: 余暇活動及び居場所について ⇒ 他部会との連携: 自部会で検討を継続 ⇒ 運営会議での取扱い: 意見交換

・成人が利用できる日中や休日等に余暇を過ごす場や居場所、活動の機会がない。

⇒  
 ・地域との繋がりが持てる場を、インフォーマルな資源を含めて検討する必要がある。  
 ⇒  
 ・居場所とは何か整理が必要。

⇒  
 ・居場所の整理を行うために必要な情報収集、またニーズの分析方法を検討していく。

## ■各回の検討から見える地域課題

・8050世帯の課題、医療的ケアや重度障害者の支援体制が整っていない。ハード面を整える必要もあるが、人員不足により支援体制を整えることが難しい。  
 ・横のつながりの場を持つことで、支援スキルの向上、メンタルケアの場を設けることが必要ではないか。

## ■各回におけるその他の共有事項 ※研修の実施状況や部会で単に情報共有した内容等

・令和6年10月から開始された柏市地域移行・生活相談支援コーディネート事業報告。関係機関との連携や支援者支援の取組を共有した。  
 ・日中サービス支援型グループホーム評価委員について、来年度野田部会長が継続、部会での報告は来年度予定。  
 ・事業者の意見交換の機会を多くほしいと意見あり。柏市地域移行・生活相談支援コーディネート事業で出前講座や交流の場を設ける。  
 ・昨年度から継続し、柏市精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業、柏市健康医療部保健予防課(柏市精神保健福祉支援者研修会)と共催で合同研修会を、12月16日に開催する。内容は、「精神障害者についての基礎知識・対応について」講義形式を予定している。  
 ・防災安全課より柏市の基本的な防災対策について、4部会合同で研修を予定、そのうえでくらし部会で解決すべき課題があるか検討を行う。

# 部会報告シート

## ■部会の基本情報

部会名	はたらく部会
担当者名	部会長 障害者就業・生活支援センタービックハート柏 八木原 直彦
部会の目的	障害者の就労支援体制や課題等について検討
構成員	障害者就業・生活支援センター, 職業安定所, 商工会議所, 特別支援学校, 就労支援事業所, 就労継続支援事業所, 当事者団体, 行政(障害福祉課)

今年度の予定(今回の報告対象:背景色のある回)

会議体名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
はたらく部会		①20日			②27日				③4日			
一般就労連絡会		①29日				②5日			③1日			
福祉的就労連絡会		①29日				②3日			③1日			

## ■プランとの関連

関連する柱	柱3(就労支援)
-------	----------

プラン方針	・多様なニーズに応じた就労支援 ・企業における障害理解促進の取組強化 ・工賃向上
-------	--

## ■各回における検討内容

地域の声>当事者からどんな声があった?何に困っている? ⇒ 部会で出た課題>なぜ困っている?どこに課題がある? ⇒ 今後の方針>部会でどんな取組を進める?  
 件名: 就労選択支援事業について 他部会との連携: 他部会と合同で検討希望 運営会議での取扱い: 情報共有

特別支援学校在校生(現1年生)が卒業後、A型事業所を希望する場合において当該事業の実施が必要になった。対象が広がった為、実施する生徒数が増加する事が想定される中で、スムーズに実施できるか不安な点がある。	⇒	実施対象の枠が広がった事から、市内事業所の整備が必要ではないか。また、近隣市においても実施事業所が少ない現状がある為、各市との連携(ツール、報告書の共有)が必要ではないか。	⇒	部会として作成したツールや実施事業所の一覧等について市のホームページを活用する等、周知や情報提供について検討していく。開設希望の事業所とは個別に相談していく。
---	---	--	---	---

件名: なんでも座談会について

他部会との連携: 自部会で検討を継続 運営会議での取扱い: 情報共有

他事業所との交流の場である数少ない貴重な機会となっているが、その場限りとなってしまうその後の業務に活かしていない。	⇒	他事業所と連携する機会は事業所によって様々である事からすぐに業務に直結させるのは難しい。	⇒	連絡会で実施している事業に実行委員として参加を促し横の繋がりを強くする為の機会を設けていくのはどうか。例えばキックオフミーティングのメンバーも数年変わっていないことから、なんでも座談会に参加されている方から実行委員を募る等、雇用の促進や支援を推し進めていく上で必要な人材確保について次年度検討していくなどの案が考えられる。
---	---	--	---	---

件名: 工賃向上について

他部会との連携: 自部会で検討を継続 運営会議での取扱い: 情報共有

今までプランの方針として工賃向上を掲げてきたが、事業所から企業への送り出し等、利用されている方の可能性を広げていく視点も重要ではないか。	⇒	工賃向上や就労支援等、各事業所によって考え方に違いがある。また、事業所の経営センスや知識等、現状からの意識改革が課題である。	⇒	就労や事業所経営に特化した研修や外部から情報交換等を行い意識改革を図っていく。また、就労支援に関心のある事業所については、一般就労連絡会への参加も検討していく。
--	---	--	---	--

## ■各回の検討から見える地域課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労選択支援事業において柏市内事業所では、11月末現在で2事業所が開始となっている。引き続き検討会等で情報共有を行いスムーズな活用ができるよう整備していく必要がある。</li> <li>・人材不足や育成、また、工賃向上を掲げているものの、千葉県平均との差が開いている事について、事業所レベルでの意識改革や施策について検討。</li> </ul>
--

## ■各回におけるその他の共有事項 ※研修の実施状況や部会で単に情報共有した内容等

<ul style="list-style-type: none"> <li>・はたらく部会・相談支援連絡会合同での就労選択支援検討会(11/26)を行い、当該開始事業所より現在の進捗、また11月～事業開始となった事業所より申請時についての話をお聞きした。また実務者会議により作成したアセスメントシートについて、部会で最終確認を行い決定。今後は他市からの要望等もあり、市のホームページにて掲載予定。</li> <li>・一般就労連絡会でご意見を頂いた医療機関連携シートについても確認を行い、柏市ホームページにて掲載を検討中。</li> <li>・第3回一般就労連絡会にて、以前、福祉的就労連絡会で作成した「で・あえーるハンドブック」の就労移行事業所版の作成希望のご意見が再度あがった。</li> <li>・第3回福祉的就労連絡会では、千葉県障害者就労振興センター、センター長による工賃向上にむけた成功事例の取り組みについてご講義を頂いた。併せて就労選択支援事業に係る検討会、医療機関連携シートの活用、合同販売会の報告(地域活動館は令和7年度末運営終了)を行った。</li> </ul>
--

# 部会報告シート

## ■部会の基本情報

部会名	こども部会
担当者名	部会長 社会福祉法人桐友学園 新福 麻由美
部会の目的	柏市における障害児支援のあり方について協議
構成員	児童発達支援、放課後等デイサービス事業所、当事者団体、特別支援学校、行政(児童生徒課, こども発達センター, 保育運営課, 母子保健課, 障害福祉課)

今年度の予定(今回の報告対象:背景色のある回)

会議体名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
こども部会		①27日				②9日			③2日			
早期支援担当者会議				①16日		②25日	③29日				④16日	
放課後等デイサービス連絡会			①24日				②14日				③6日	
児童発達支援事業所連絡会			①20日							②22日		

## ■プランとの関連

関連する柱	柱4(こども)
-------	---------

プラン方針	・乳幼児期における支援 ・学齢期における支援 ・切れ目のない支援
-------	----------------------------------

## ■各回における検討内容

地域の声>当事者からどんな声があった?何に困っている?  
件名: 切れ目のない支援について

部会で出た課題>なぜ困っている?どこに課題がある?  
他部会との連携: 自部会で検討を継続

今後の方針>部会でどんな取組を進める?  
運営会議での取扱い: 情報共有

健診に関してが3歳児健診までしかプランに書かれていない。就学前から就学後を繋ぐ意味で5歳児健診について取り上げてほしい。ライフステージが変わっても身近に相談出来る場所があると良い。

⇒ 国の目的は就学までスムーズにいくためのもので、柏市としては発達のスクリーニング、その先の療育機関の受け皿や繋ぎをどのようにしていくか検討が必要。また、5歳児健診は縦の連携であり、横と縦の連携がうまくいきにくく、連携強化が必要。相談員、事業所の職員、行政窓口など困り感のある相談内容に対応出来る相談力が必要。

⇒ 今後の柏市の方向性や国の動向にも注目して、必要機関からの情報を収集して、提示していく。横と縦の連携については、連絡会や部会の中でも研修等でお互いを知っていく機会について、事務局会議にて整理して検討する。

件名: インクルーシブ教育について

他部会との連携: 自部会で検討を継続 運営会議での取扱い: 情報共有

学齢時に関して、現代はICTの活用など進んでいるはずだが、現行プランには記載がほとんどない。

⇒ 国の描いているインクルーシブ教育と実態に違いが生じている部分もある。ICT活用も含めて、教育機関とお互いのことを知っていく必要もある。

⇒ 福祉と教育の課題については、事務局会議で整理し、来年度以降に教育機関との連携等について検討をしていく。

件名: 障害児通所支援に関して

他部会との連携: 自部会で検討を継続 運営会議での取扱い: 情報共有

児童発達支援事業所は数が増えてきたが、支援の実態に関しては質が伴わない。放課後等デイサービスは質も求められる一方で、通所が出来ないといった、事業所の数が不足している。

⇒ 事業所によって支援体制や内容に関して大きな違いがあり、質の部分で疑問があがっている。放課後等デイサービスは受給者証の支給決定者数と事業所数のバランスが合っていない。量の充実が大きな課題。

⇒ 質に関しては、児童発達支援センター実施のアンケートから支援に関しての困り感や課題を抽出し、各連絡会や児童発達支援センターでの研修会にて研鑽する。量に関しても、児童発達支援センター実施のアンケートから受け入れ状況や対象児等について分析を共に行っていく。

## ■各回の検討から見える地域課題

・横と縦の連携など、児童に関わる機関(保育、就学前、就学後、教育、通所事業所など)がお互いのことを理解し、顔の見える関係性を構築していくことが必要。  
・障害児通所支援の質と量のバランス。  
・全体の課題に対して、同じような課題が数年ずっとあがっており、課題の解決に繋がらない。どのようにしたら解決に向かうのか部会の運営形式を検討すべき。ワーキンググループのような形で課題に対して具体的に検討して取り組む形式が良いか、事務局会議にて、来年度の運営の仕方について検討を行う。

## ■各回におけるその他の共有事項 ※研修の実施状況や部会で単に情報共有した内容等

・保育所等訪問支援分科会について、これまで児童発達支援連絡会の中で分科会として行ってきたが、事業所の数が増えてきたこともあり、来年度以降は保育所等訪問支援連絡会へ名称を変更とする。  
・防災に関する研修: 令和8年3月4日オンラインで開催予定。詳細は追って案内。